

Precision Channel Strip

5 バンド・イコライザー&ダイナミクス

Precision Channel Strip は、フレキシブルなダイナミクス・プロセッシングが可能なクリーンなコンプレッサー/リミッター・モジュールと組み合わせたモダンな 5 バンド EQ モジュールです。

Precision Channel Strip の EQ セクションは、最大で 5 バンドのカット、シェルフ&フルパラメトリック EQ を切替えて使用できる強力なトーンシェイピングを提供します。各バンドは、20 Hz ~ 20 kHz の範囲で周波数のオーバーラッピングが可能で、EQ は簡単に多くのサウンドにフレキシブルさを与え、ダイナミクス・セクションの後にルーティングすることができます。

汎用性があり、使いやすいデザインを採用した Precision Channel Strip のダイナミクス・セクションは、スローで透明なものからスナッピーで限界を超えたアグレッシブなものまで、広いレンジのアタックとリリース・オプションを連続的に提供します。

素早い調整を行なうためにオートゲイン機能を使用するか、微調整をマニュアルで行なうためにそれをバイパスすることもできます。

特徴

- ラティスフィルター・デザインの音楽的でフレキシブルな EQ
- カット、ピーク、シェルフフィルター付 5 オーバーラッピング・バンド
- ハードリミッティングからソフトコンプレッションまで、ナチュラル〜アグレッシブなダイナミクス・コントロールが可能
- オプションのダイナミクス・オートメイク・アップゲインとダイナミクス/EQ ルーティング・スワップ

Precision Mix Rack コレクション

Precision Channel Strip は、トラッキングやミックスのためにモダンでハイクオリティなプロダクション・ツールを提供する Precision Mix Rack コレクションの一部です。Precision Mix Rack コレクションは、以下の UAD プラグインが収録されています。:

- **Precision Channel Strip**
5 バンド EQ とダイナミクス・プロセッサー
- **Precision Delay Mod**
モジュレーション付ハイフィデリティ・ステレオディレイ
- **Precision Delay Mod Long**
Precision Delay Mod より長いディレイタイムを持つプロセッサー
- **Precision Reflection Engine**
スモールルーム・アンビエントシミュレーター

Precision Channel Strip スクリーンショット



図 111. Precision Channel Strip インターフェイス

操作について

下に示すように Precision Channel Strip は、EQ、ダイナミクス、アウトプット・セクションから構成されています。



イコライザー

イコライザー・モジュールは、クリーンで高い忠実度のあるサウンドが得られるように設計されています。EQ は、古パラメトリック・ラティスフィルターバンドで構成され、それぞれが独自のコントロール・セットを備えています。すべてのバンドは 20Hz ~ 20kHz までの周波数レンジを持ち、各バンドを重ね合わせた複雑なレスポンス・カーブを作ることができます。最初の 2 つのバンドは、ローシェルフ、またはハイパス・フィルターとして機能させることができます。同様に最後の 2 つのバンドは、ハイシェルフ、またはローパス・フィルターとして機能させることができます。

ダイナミクス

ダイナミクス・セクションは、高い忠実度のコンプレッションと連続可変コントロールを持つリミッティング、そしてピーク/ホールド・ゲインリダクションメーターを提供しています。このアルゴリズムは、コンプレッション・アーティファクトを最小限に抑え、アタックからリリースへの以降をスムーズにし、歪みを最小限に抑えた設計となっています。

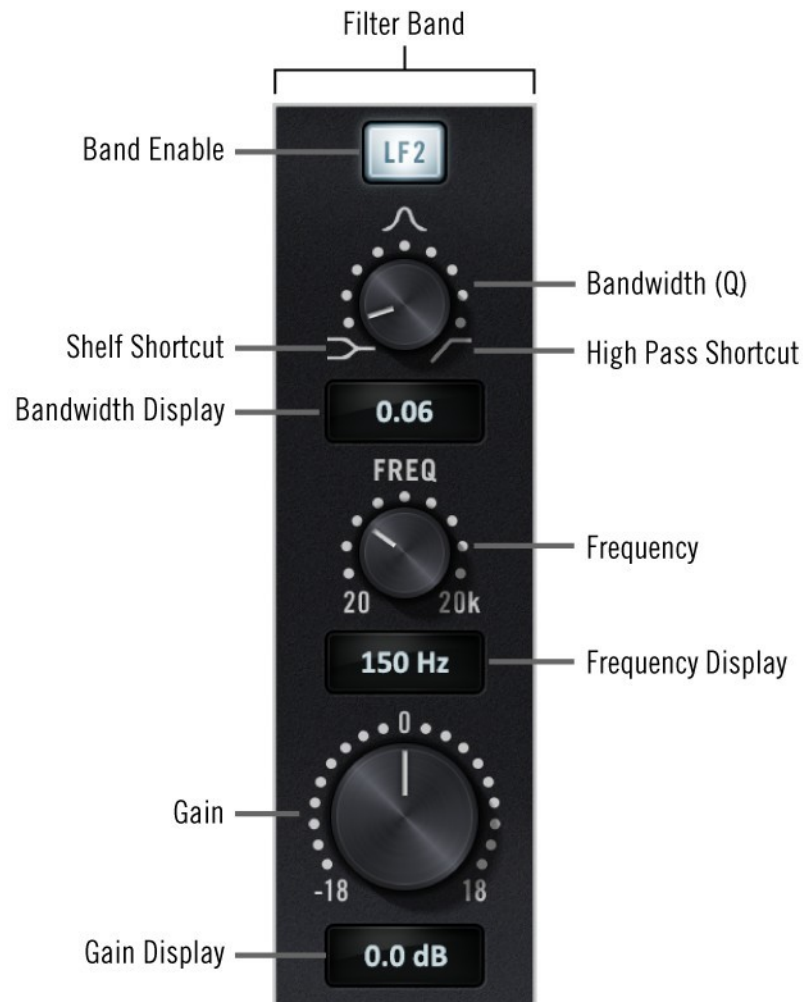
1:1 から ∞ :1 まで連続的に調整可能なコンプレッション・レシオが使用でき、幅広いアタックとリリースを持ちます。オート・メイクアップゲインをオン/オフすることも可能です。

イコライザー・モジュールは、ダイナミクス・モジュールにルーティングされますが、このルーティングは必要に応じてダイナミクス・モジュールを EQ モジュールの前に変更することも可能です。

- アウトプット** イコライザーとダイナミクス・モジュールに個別のゲインコントロールがあります。正確なピーク/ホールド・メーターは、プラグインの入力、または出力レベルを表示するように切り替えることができます。
- EX-1 から以降** UAD v8.2 と同様に、Precision Channel Strip は、オリジナルの EX-1 プラグインと置き換えられます。EX-1 を含むセッション UAD v8.2 以降で開かれると、EX-1 プラグインのインスタンス、設定、プリセットが自動的に新しい Precision Channel Strip に移行されます。.
- EX-1 の移行に関する方法の詳細は、“[CS-1 との互換性](#)”を参照してください。

イコライザー・コントロール

このセクションのコントロールの説明については、以下の図を参照してください。



バンド・イネーブル

5個のフィルター・バンドのそれぞれは、このボタンを使用して個別にオン/オフすることができます。ボタンが点灯しているときは、フィルター・バンドはオンになっています。オフにすると、バンド値の表示は、薄くなります。デフォルトでは、すべてのバンドがオンです。

バンド幅(Q)

このノブは、バンドが影響を受ける中心周波数の周囲の範囲を決定します。値が大きくなるほど、狭い/シャープなバンドを作り、値が低くなると広い/ワイドなバンドに影響を与えます。5バンドで使用可能な範囲は 0.03 ~ 32 です。

LF1, LF2

両方の低周波数帯域 (LF1 & LF2) の帯域幅が最小値に設定されている時、そのバンドはローシェルフ・フィルターとなります。最大値に設定するとそのバンドは、ハイパス・フィルターとなります。

ヒント: 素早く機能を選択するためには、フィルターやシェルフの記号をクリックしてください。

注: ハイパスに設定するとそのバンドのゲインコントロールは無効になります。

HF1, HF2

両方の低周波数帯域 (HF1 & HF2) の帯域幅が最小値に設定されている時、そのバンドはハイシェルフ・フィルターとなります。最大値に設定するとそのバンドは、ローパス・フィルターとなります。

注: ローパスに設定するとそのバンドのゲインコントロールは無効になります。

フリークエンシー

このノブは、各バンドのゲインセッティングによりブースト/アッテネーションされる中心周波数を設定します。使用可能な周波数の範囲は、すべてのバンドで 20 Hz ~ 20 kHz です

ゲイン

ゲイン・コントロールは、フリークエンシーによって設定した周波数帯のブースト/アッテネーション量を決定します。使用可能な範囲は±18 dB です。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると素早く設定を 0 dB に戻すことができます。

ダイナミクス・コントロール

このセクションのコントロールの説明については、以下の図を参照してください。



アタック

アタックは、インプット・シグナルがスレッショルド・レベルに達した後、コンプレッションが発生するまでにかかる時間を設定します。

アタックタイムの最小値は、サンプルレートに依存します。サンプルレートが 44.1 kHz と 48 kHz の最小アタックタイム値は、0.05msec です。88.2 kHz と 96 kHz では、0.03 msec です。176.4 kHz と 196 kHz では 0.02 msec です。アタックタイムの最大値はすべてのサンプルレートで 100 msec です。

速いアタックタイムは、シグナルがスレッショルドを超えると、より急速にコンプレッションを与えます。遅いアタックタイムは、その反対で、シグナルのアタック・トランジェントをコンプレッションせず通過させ、より“パンチの効いた”サウンドを容易に作ることができます。

リリース	リリースは、インプット・シグナルがスレッシュホールド値を下回った後、コンプレッションが停止するまでの時間を設定します。使用可能な範囲は 25 msec から 2500 msec (2.5 sec) までです。 遅いリリースは、シグナルが頻繁にピークを持つ素材に出会った場合、特に有効であり、スレッシュホールドを下回った場合に発生するトランジションをスムーズにすることができます。リリースの設定が長すぎると、大きなシグナルによるオーディオ・セクションのコンプレッションがスレッシュホールド以下のオーディオにも影響を与えるかもしれません。
レシオ	レシオは、ダイナミクス・プロセッサーによって適用されるゲインリダクション量を設定します。例えば、値が 2 (レシオが 2:1 の意味) の場合、20dB のインプット・シグナルは、10dB まで減衰されます。 値が 1 の場合、コンプレッションは得られません。10 を超える値では、リミッティング効果が得られます。使用可能な範囲は、1 ~ ∞ (INF) です。
スレッシュホールド	ダイナミクス・プロセッサーのスレッシュホールド・レベルを設定します。このレベルを超えたシグナルをコンプレッションします。レベル以下のシグナルには影響を与えません。スレッシュホールド値が 0dB の場合はコンプレッションされません。使用可能な範囲は、0 dB ~ -60 dB です。 注: 多くのアナログ・コンプレッサーと同様に、スレッシュホールドを 0dB に設定してもゲインリダクションをトリガーすることができます。
オートゲイン	ボタンが点灯しているときは、オートゲインが有効になっています。デフォルトでは有効になっています。 スレッシュホールドを増やすとコンプレッションが多くかかり、ゲインリダクションされることで必然的にアウトプット・レベルも下がります。オートゲインは、コンプレッサーのアウトプット・レベルの低下を自動的に補正します。
ダイナミクス・プリ EQ	デフォルトでは、インプット・シグナルは、EQ モジュールにルーティングされ、EQ のアウトプットからダイナミクス・モジュールにルーティングされます。 このボタンをオンにするとボタンが点灯し、インプット・シグナルがダイナミクス・モジュールにルーティングされ、コンプレッサーのアウトが EQ モジュールにルーティングされます。
ゲインリダクション・メーター	ゲインリダクション・メーター (GR とラベリング) は、メインの左右ステレオ I/O メーターの間に配置されています。このピーク/ホールド・メーター (青) は、ダイナミクス・モジュールで発生するゲインリダクション量を表示します。最大の GR ピークは約 3 秒間ホールドされます。

I/O ~~メーター~~

ステレオ・ピーク/ホールド・メーター（それぞれに L/R のラベル付）は、メーターの“IN/OUT”ボタンの状況に応じてプラグインの入力、または出力のシグナル・レベルを表示します。

メーター・レンジは、-30 dB ~ 0 dBFS です。シグナルのピークは約 3 秒間ホールドされてからリセットされます。

注: I/O メーターは、EQ とダイナミクス・モジュールのいずれか、または両方がオフになっている場合でもアクティブなままです（プラグイン自体がオフの場合は、すべてのメーターは無効になります）。

メーター イン/アウト

このボタンは、ステレオ I/O メーターが、入力、または出力・レベルのどちらを表示するか決定します。入力、または出力のどちらか指定している方のボタンが点灯します。

アウトプット・コントロール

このセクションのコントロールの説明については、以下の図を参照してください。



EQ イネーブル

TEQ モジュール全体のオン/オフをコントロールします。EQ ボタンが点灯しているときはモジュールがオンです。オフにするとすべての EQ バンドが薄い色になります。デフォルトではオンになっています。

EQ の処理前と処理後のシグナルを比較するために便利です。

注: EQ モジュールがオフになっているときは、UAD-2 DSP の消費率を低減することができます。(DSP ロードロックがオフの場合)

EQ レベル

EQ モジュールのアウトプット・レベルを調整します。可能な範囲は、-25 dB ~ +15 dB です。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると素早く設定を 0 dB に戻することができます。

ダイナミクス・イネーブル ダイナミクス・モジュール全体のオン/オフをコントロールします。DYNAMICS ボタン点灯時は、モジュールがオンになっています。オフにするとダイナミクス・パラメーターとディスプレイは薄い表示に変わります。デフォルトではオン担っています。

ダイナミクスの処理前と処理後のシグナルを比較するために便利です。

注: ダイナミクス・モジュールがオフになっているときは、UAD-2 DSP の消費率を低減することができます。(DSP ロードロックがオフの場合)

ダイナミクス・レベル ダイナミクス・モジュールのアウトプット・レベルを調整します。可能な範囲は、-25 dB ~ +15 dB です。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると素早く設定を 0 dB に戻することができます。

パワー プラグインのバイパス・コントロールです。オフに設定するとすべてのパラメーターとメーターの値が表示されなくなり。UA ロゴがグレー表示になります。

ヒント: UA ダイヤモンド・ロゴをクリックすることでパワーを切り替えることができます。

DSP ロードロックが無効になっている場合、プラグインをバイパスするとUAD-2DSP の付加を低減することができます。DSP ロードロックの設定は、UAD Meter & Control Panel アプリケーションで行なうことができます。

パワーは、原音と処理後のシグナルを比較する場合に便利です。切替時にノイズの発生する可能性があるホスト・アプリケーションのプラグイン・バイパスのスイッチとは異なり、パワー・スイッチは、グリッチ音が発生しないバイパスを使用しています。

Precision Delay Modulation

モジュレーション機能付きフレキシブル・ステレオディレイ

Precision Delay Modulation は、モジュレーション機能を備えた高い忠実度のステレオディレイ・プロセッサーです。コーラス、フランジャーと3種類のディレイ・タイプを含む5つのモードで、Precision Delay Mod と Delay Mod L (ロング)は、どのようなソースにもきらめきを持つクリエイティブなムーブメントの巨大なパレットを提供します。

特徴

- 5種類の動作モードを持つデュアルディレイ・プロセッサー
- 6 LFO モジュレーション・オプション
- ディレイ・タイムとモジュレーション・レートのテンポ・シンク
- Precision Delay Mod L – ディレイ・タイムを拡張したロング・バージョン

Precision Mix Rack Collection

Precision Delay Modulation は、Precision Mix Rack Collection の一部で、トラッキングやミックス時にモダンでハイクオリティなプロダクション・ツールを提供します。Precision Mix Rack Collection は、以下の UAD プラグインが収録されています。:

- Precision Channel Strip
5 バンド EQ & ダイナミクス・プロセッサー
- Precision Delay Mod
モジュレーション付ハイフィデリティ・ディレイプロセッサー
- Precision Delay Mod Long
Precision Delay Mod のロング・ディレイ版
- Precision Reflection Engine
スモールルームアンビエンス・シミュレーター

Precision Delay Modulation スクリーンショット



図 113. Precision Delay Modulation インターフェイス

操作について

Precision Delay Modulation プラグイン

Precision Delay Mod と Precision Delay Mod L (ロング) は 2 つの独立したプラグインです。この 2 種類は、まったく同じコントロール・セットを持ち、同じように操作することができます。

2 つのプラグイン間の唯一の違いは、Precision Delay Mod L は、拡張したエコー効果のために長いディレイタイムを有している点です。長いディレイタイムの設定は、より多くの UAD-2 メモリーリソースを必要とします。1 秒以上のディレイタイムが必要になる場合は、Precision Delay Mod L の使用が適しています。

注: 特に断りのない限り、この章のすべてのコントロールについての説明は、*Precision Delay Mod* と *Precision Delay Mod Long* プラグインの両方について説明しています。

Precision Delay Modulation のコントロールのレイアウトは以下に示します。



ディレイ・トポロジー Precision Delay Mod は、A、B とラベリングされた 2 台のディレイ・プロセッサがあり、デュアル、クロスオーバー、ピンポン、コーラス、フランジャーという 5 種類のモードで構成されています。

各ディレイラインは、独立したディレイタイムを有しており、使用可能なディレイタイムの範囲は、使用するモードによって異なります。フィルターのセット（ハイパス/ローパス）、リサーキュレーション（フィードバック）コントロールは、両方のディレイで共有されています。ディレイラインは、ホストアプリケーションのテンポにシンクさせることができます。

ステレオアウトで使用する場合、ディレイのアウトプット A、B は、独立してステレオフィールドにパンを割り当てることができます。モノで使用する場合、アウトプット A、B は、独立してアウトプット・レベルをコントロールすることができます。

モジュレーション トポロジー

各ディレイラインは、ディレイ・タイムにモジュレーションを与える LFO を有しています。モジュレーション・コントロールのセットは、両方のディレイラインで共有されます。サイン波、トライアングル波の LFO ウェーブが使用でき、2 つの LFO 間のフェイズオフセットは、様々なモジュレーション・エフェクトに変更することができます。モジュレーション・タイムは、ホストアプリケーションのテンポにシンクさせることができます。

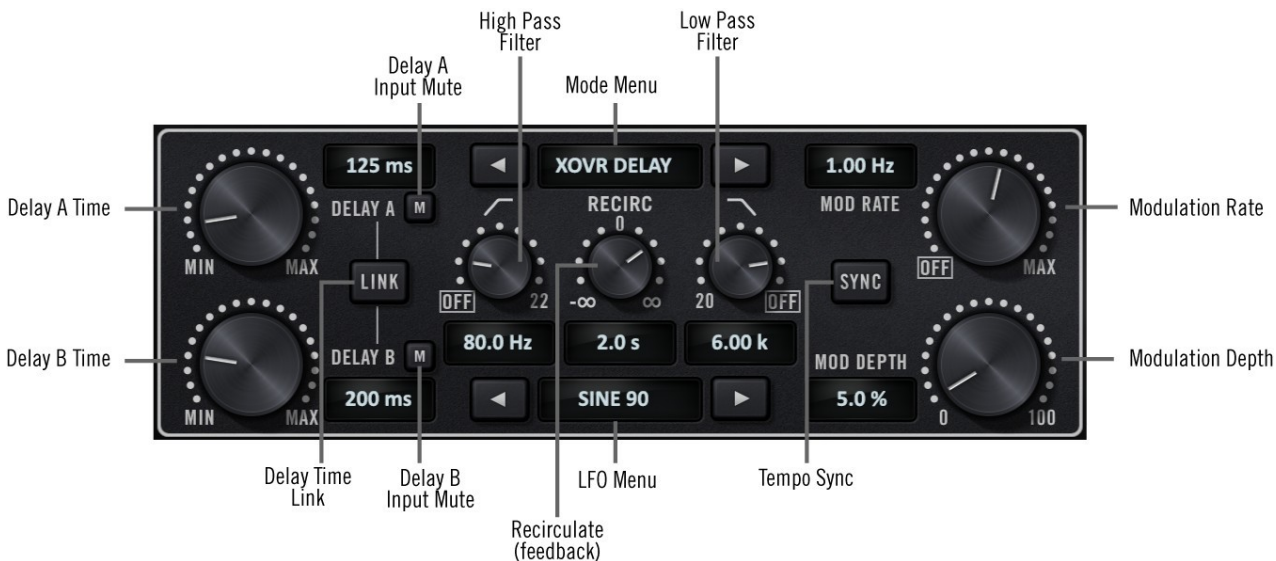
DM-1/DM-1L からの移行

UAD v8.2 と同様に、Precision Delay Modulation は、オリジナルの DM-1、DM-1L プラグインと置き換えられます。DM-1/DM1L を含むセッション UAD v8.2 以降で開かれると、DM-1/DM1L プラグインのインスタンス、設定、プリセットが自動的に新しい Precision Delay Modulation に移行されます。

EX-1 の移行に関する方法の詳細は、“[CS-1 との互換性](#)”を参照してください。

Precision Delay Modulation のコントロール

このセクションのコントロールの説明については、以下の図を参照してください。



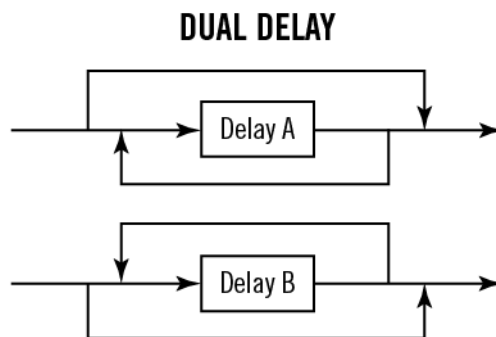
モード

モードは、プラグインの根底になるトポロジを決定します。それによって使用できるディレイタイムが異なります。モードは以下の方法によって切り替えることができます。:

- モード・ディスプレイの両側にある矢印をクリック
 - モード・ディスプレイをクリックしてドロップダウン・メニューから選択
- 種類のモードがあり、以下でそれぞれについて説明します。

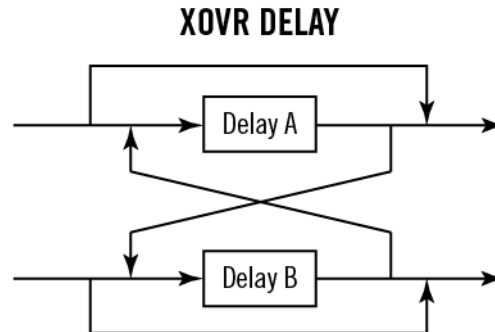
デュアルディレイ

デュアルディレイ・モードは、再循環されたシグナルは、ディレイラインのアウトプットから同じディレイラインのインプットに送られます。



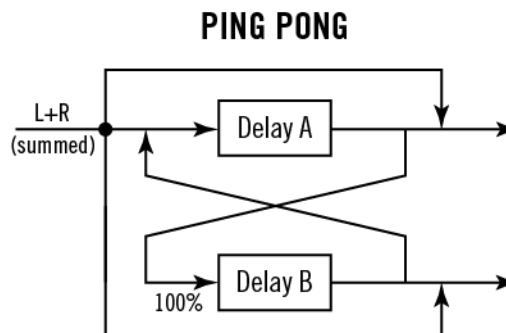
クロスオーバー(XOVR)ディレイ

クロスオーバーディレイ・モードでは、再循環したシグナルは、反対のディレイラインのインプットに送られます。



ピンポン・ディレイ

インプットは、ディレイ A にだけ送られ、ディレイ A のアウトプットは、ディレイ B のインプットに送られます。再循環の調整は、ディレイ B から ディレイ A へのフィードバック・レベルで行ってください。



コーラス

デュアルディレイと同じポロジータを持ちますが、コーラス・エフェクトにより適している短いディレイ・タイムを有しています。

フランジャー

デュアルディレイと同じポロジータを持ちますが、フランジャー・エフェクトにより適している短いディレイ・タイムを有しています。

ミュートA,B デレイラインのインプットでのシグナルをミュートします。“M”ボタンが点灯しているときは、デレイのインプットがミュートされます。

一方、または両方のデレイのインプットを(マニュアル、またはオートメーションで)ミュートすることによって、打楽器などに適したクリエイティブなエフェクトの使用法のトリガーとすることができます。

デレイA,B プロセッサーのデレイタイムを設定します。デレイライン A、B は、それぞれ固有の値を設定可能です。

使用可能な最小のデレイタイムは、0.14 msec です。使用可能な最大デレイタイムは、プラグインの使用中のモードによって異なります。両方のプラグインのすべてのモードで使用可能な最大デレイタイムを下記の表に示します。

注: モードを切り替えた場合、新しいモードの最大デレイタイムが前のデレイタイムより短い場合、前の値は失われます。

表 28. 使用可能な最大デレイタイム

モード	Precision Delay Mod	Precision Delay Mod L
デュアルデレイ	1 sec	3 sec
クロスオーバーデレイ	1 sec	3 sec
ピンポン	1 sec	3 sec
コーラス	125 msec	
フランジャー	45 msec	

リンク デレイ A、A のタイム・ノブとミュートボタンを同時にコントロールできるようになります。ボタンが点灯時はリンクされています。

リンク時は、片方のデレイタイム・ノブを変更するともう一方も続きます。2 つの値に差があった場合は、そのオフセットも維持されたままになります。

レート デレイのモジュレーション・レートを設定します。使用可能な範囲は、0 ～ 30 Hz です。シンクが有効になっている場合、ホストアプリケーションのテンポとシンクします。

ヒント: 素早くモジュレーションを無効にするにはテキストラベル“OFF”をクリックしてください。

デプス モジュレーションの深さを設定します。使用可能な範囲は、0 ～ 100% です。

注: レートが 0 以外の値に設定されている場合、デプスの効果のみが聴こえません。

LFO	ディレイ・シグナルのモジュレーションを行なうために LFO の波形とフェイズを使用することができます。: • LFO ディスプレイの両側にある矢印をクリック • LFO ディスプレイをクリックしてドロップダウン・メニューから選択 波形は、トライアングル、またはサイン波を 0、90、180 度 のフェイズ値で設定することができます。
シンク	シンクを有効にすると、ディレイタイムとモジュレーション・レートはホストのテンポに同期します。ボタンが点灯しているときは、シンクが有効になっています。デフォルトでは無効になっています。
	無効時、ディレイタイムは msec(ミリセカンド)、モジュレーション・レートは、Hz(ヘルツ)で表示されます。シンク時には、拍数で表示されます。 注: この機能の詳細については、UAD システムマニュアルの“テンポシンク”の章を参照してください。
リサーキュレーション	リサーキュレーション(フィードバック)は、インプットに送られるディレイ・シグナルの量をコントロールします。高い値は、ディレイ数とプロセッシングされたシグナルの強さを増やします。
	リサーキュレーションは、ポジティブとネガティブの値の両方を設定可能です。ポジティブの値では、フィードバック・シグナルの極性は元のソースと同じで、ネガティブの値では、極性が反転します。 ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとリサーキュレーションは無効になります。
	デュアルディレイ、クロスオーバーディレイ、ピンポン・モードでのリサーキュレーション値は、T60 タイムとして表示されます(信号のタイムの前のかつら 60dB ドロップします)。コーラス、フランジャー・モードでの値は、パーセンテージで表示されます。
ハイパス	オクターブ当たり 12 デシベルのハイパス(ローカット)フィルターは、ディレイのインプットでの低域周波数を低減します。フィルターは、ウェット・シグナルに影響します。使用可能な周波数レンジは、20 Hz ~ 22 kHz です。
	低域周波数帯を下げるにはノブを時計回りに回転させてください。完全に反時計回りに回すとフィルターは無効になります。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとリサーキュレーションは無効になります。前の値に戻すにはもう一度クリックしてください。

ローパス

オクターブ当たり 6 デシベルのローパス(ハイカット)ダンピング・フィルターは、ディレイのインプットでの高域周波数を低減します。フィルターは、ウェット・シグナルに影響します。使用可能な周波数レンジは、20 Hz ~ 22 kHz です。

低域周波数帯を下げるにはノブを反時計回りに回転させてください。完全に時計回りに回すとフィルターは無効になります。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとリサーキュレーションは無効になります。前の値に戻すにはもう一度クリックしてください。

アウトプット コントロール

このセクションのコントロールの説明については、以下の図を参照してください。



ミックス

原音とプロセッシングしたシグナルのバランスをコントロールします。設定可能な範囲は、0%(ドライ/未処理)~100%(ウェット/処理済)です。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックすると値が 0 に戻ります。

ミックスは、ポジティブとネガティブの値の両方を設定可能です。ポジティブの値では、フィードバック・シグナルの極性は元のソースと同じで、ネガティブの値では、極性が反転します。

注: ウェット・ソロをオンにするとミックスの値は無効になります。

ウェットソロ

このボタンは、プラグインを“100%ウェット”にします。“S”ボタンが点灯していると、ウェットソロが有効になり、ミックス・コントロールが 100%に設定されている場合と同等になります。ウェットソロが有効になっている時は、ミックスの値は無視されます。

プラグインは、一般的にバス等の古典的なディレイ・セッティングで使用得る場合にウェットソロで使います。シグナル・チェイン内(チャンネルインサート)で使用する場合、このコントロールは使用しません。

注: ウェットソロは、(プラグイン・インスタンスごとの)グローバル・コントロールです。

パンA、B

プラグインがステレオ・セッティングで使用されている場合、“PAN”とラベルされたノブによりステレオフィールドでディレイのアウトプットの配置を設定することができます。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとステレオフィールド中央に戻ります。

パン・リンク

“L”ボタンが点灯しているとパン・リンクが有効になり、パン A、B ノブはステレオパン・フィールドで連動して動作します。

ヒント: モノアウトで使用している場合、このボタンは無効です。

ゲインA、B

プラグインがモノアウトで使用されている場合、このノブは“GAIN”とラベルされ、ここのディレイラインのアウトプット・レベルを設定します。

注: ゲイン A、B はリンクすることはできません。

モノアウトで使用する際でも、これらのコントロールのオートメーション・ラベルは“パン”です。

レベル

このノブは、プラグインのアウトプット・レベルを調整します。使用可能範囲は、-25 dB ~ +15 dB です。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックすると値が 0 に戻ります。

パワー

プラグインのバイパス・コントロールです。オフに設定するとすべてのパラメーターとメーターの値が表示されなくなり。UA ロゴがグレー表示になります。

ヒント: UA ダイヤモンド・ロゴをクリックすることでパワーを切り替えることができます。

パワーは、原音と処理後のシグナルを比較する場合に便利です。切替時にノイズの発生する可能性があるホスト・アプリケーションのプラグイン・バイパスのスイッチとは異なり、パワー・スイッチは、グリッチ音が発生しないバイパスを使用しています。

Precision Reflection Engine

スモールルーム・アンビエンスシミュレーター

Precision Reflection Engine は、小規模な音響空間、タイトなリバーブ・エフェクト、ミックスのポジションニングを決める手がかりをシミュレートするためのアンビエンス・プロセッサーです。プラグインは幅広いシェイプをシミュレートし、繊細なものから劇的にまでソースのリフレクション・パターンやサイズを変更するために使用することができます。現実の音響空間だけでなくその他の非現実的なアンビエンスや特殊効果も可能にします。

Precision Reflection Engine の特徴

- 広範囲のアンビエンス・キャラクターに対応可能な 19 種類のシェイプ
- プリディレイ・タイムをテンポシンクさせ、ビートにマッチさせることができます。
- 複雑なセッションでも多くのインスタンスが使える低 DSP 負荷

Precision Mix Rack コレクション

Precision Reflection Engine は、トラッキングとミックスに不可欠なツールを提供する Precision Mix Rack コレクションの一部です。Precision Mix Rack Collection は以下の UAD プラグインが含まれています。:

- **Precision Channel Strip**
5 バンド EQ とダイナミクス・プロセッサー
- **Precision Delay Mod**
モジュレーション付ハイフィデリティ・ステレオディレイ
- **Precision Delay Mod Long**
Precision Delay Mod より長いディレイタイムを持つプロセッサー
- **Precision Reflection Engine**
スモールルーム・アンビエントシミュレーター

Precision Reflection Engine スクリーンショット



図 128. Precision Reflection Engine のインターフェイス

RS-1 からの移行

UAD v8.2 と同様に、Precision Reflection Engine は、オリジナルの RS-1 プラグインと置き換えられます。RS-1 を含むセッション UAD v8.2 以降で開かれると、RS-1 プラグインのインスタンス、設定、プリセットが自動的に新しい Precision Reflection Engine に移行されます。

RS-1 の移行に関する方法の詳細は、“[CS-1 との互換性](#)” を参照してください。

Precision Reflection Engine のコントロール

Precision Reflection Engine のシンプルなコントロールはルーム・シミュレーターと、非現実的なアンビエンス等、広い範囲の設定が簡単に行なえます。



プリディレイ

原音のドライ・シグナルとプロセッシングしたリフレクションの間の時間を設定します。設定可能な範囲は、0 ～ 300 msec です。

注: シンクが有効になっている場合、プリディレイ・タイムは、拍数で表示されます。

サイズ

サイズは、残響空間のサイズを設定し、反射の感覚を決定します。設定可能な範囲は 1 ～ 99 メートルです。

プリディレイ/サイズ インタクション

プリディレイが最大値に設定され、その後サイズ・コントロールが最大値の方向に動かされると、プリディレイ値は、減少します。その逆も同じです。最大プリディレイ・タイムに達すると以下のことが起こります。; 使用可能なディレイタイムは制限され、プリディレイとサイズ値の間で分割されます。

したがって、他のコントロールの値がすでに高い場合、プリディレイ値、ディレイ値のどちらかの値が増やされると他方はその補完的なセッティングとして減少される場合があります。

リサーキュレーション

リサーキュレーションは、プロセッサのインプットにリサーキュレーションするプロセッシングしたリフレクションの量をコントロールします (フィードバックの意味)。より高い値は、プロセッシングしたシグナルのリバース/ディレイの数と強度を向上させます。典型的な使用では、小さい値は、より現実的な小さなスペースの反射を提供し、値が大きくなるほどスペシャル・エフェクトのようにクリエイティブな使用をすることができます。

リサーキュレーションは、ポジティブとネガティブの値の両方を設定可能です。ポジティブの値では、フィードバック・シグナルの極性は元のソースと同じで、ネガティブの値では、極性が反転します。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとリサーキュレーションは無効になります。

シェイプ

シェイプは、残響空間の形状(シェイプ)、その後の反射パターンを決定します。シェイプを変更するには、シェイプ・ディスプレイの両側にある矢印をクリックするかシェイプ・ディスプレイをクリックしてドロップダウン・メニューから使用可能なシェイプを選択してください。

使用可能なシェイプ

使用できるシェイプを、以下の表に示します。

図 32. Precision Reflection Engine のシェイプ

Cube	A-Frame
Box	Square Plate
Corridor	Rectangular Plate
Cylinder	Triangular Plate
Dome	Circular Plate
Horseshoe	Fractal
Fan	Gate 1
Reverse Fan	Gate 2
Spring	Reverse Gate
Dual Spring	

シンク

シンクを有効にすると、プリディレイ・タイムはホストのテンポに同期します。ボタンが点灯しているときは、シンクが有効になっています。デフォルトでは無効になっています。

無効時、ディレイタイムは msec(ミリセカンド)、モジュレーション・レートは、Hz(ヘルツ)で表示されます。シンク時には、拍数で表示されます。

注: この機能の詳細については、UAD システムマニュアルの“テンポシンク”の章を参照してください。

ローパス

オクターブ当たり 6 デシベルのローパス(ハイカット)ダンピング・フィルタは、ディレイのインプットでの高域周波数を低減します。暗いアンビエンスには値を大きくしてください。大きな値では、明るいアンビエンスを得ることができます。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックするとフィルタは無効になります。前の値に戻すにはもう一度クリックしてください。

アウトプット・コントロール



パン A、B

プラグインがステレオ・セッティングで使用されている場合、“PAN”とラベルされたノブによりステレオフィールドでディレイのアウトプットの配置を設定することができます。

ヒント: テキストラベル “0” をクリックするとステレオフィールド中央に戻ります。

パン・リンク

“L” ボタンが点灯しているとパン・リンクが有効になり、パン A、B ノブはステレオパン・フィールドで連動して動作します。

ヒント: モノアウトで使用している場合、このボタンは無効です。

ゲイン A、B

プラグインがモノアウトで使用されている場合、このノブは“GAIN”とラベリングされ、ここのディレイラインのアウトプット・レベルを設定します。

注: ゲイン A、B はリンクすることはできません。

ミックス

ミックスは、原音とプロセッシング後の信号のバランスをコントロールします。使用可能な範囲は、0% (ドライ、未処理) ~ 100% (ウェット、プロセッシング後) です。

ヒント: テキストラベル “0” をクリックすると値が 0 に戻ります。

ミックスは、ポジティブとネガティブの値の両方を設定可能です。ポジティブの値では、フィードバック・シグナルの極性は元のソースと同じで、ネガティブの値では、極性が反転します。

ミックス・コントロールの動作は、低い値にダイヤルする場合、対数スケールに基づくハイリゾリューション提供します。

注: ウェットソロをオンにするとミックス値は無視されます。

ウェット・ソロ

このボタンは、プラグインを“100%ウェット”にします。“S”ボタンが点灯していると、ウェットソロが有効になり、ミックス・コントロールが 100%に設定されている場合と同等になります。ウェットソロが有効になっている時は、ミックスの値は無視されます。

プラグインは、一般的にバス等の古典的なディレイ・セッティングで使用得る場合にウェットソロで使います。シグナル・チェーン内(チャンネルインサート)で使用する場合、このコントロールは使用しません。

注: ウェットソロは、(プラグイン・インスタンスごとの)グローバル・コントロールです。

レベル

このノブは、プラグインのアウトプット・レベルを調整します。使用可能範囲は、-25 dB ~ +15 dB です。

ヒント: テキストラベル “0”をクリックすると値が 0 に戻ります。

パワー

プラグインのバイパス・コントロールです。オフに設定するとすべてのパラメーターとメーターの値が表示されなくなり。UA ロゴがグレー表示になります。

ヒント: UA ダイヤモンド・ロゴをクリックすることでパワーを切り替えることができます。

パワーは、原音と処理後のシグナルを比較する場合に便利です。切替時にノイズの発生する可能性があるホスト・アプリケーションのプラグイン・バイパスのスイッチとは異なり、パワー・スイッチは、グリッチ音が発生しないバイパスを使用しています。